

神奈川県鎌倉と藤沢を連絡する江ノ島電鉄の鎌倉高校前駅付近の踏切は多数の人々が殺到する場所  
で、道路交通の妨害になっていくほどである。理由は発行部数が日本で歴代七位の一億八五〇万部以上  
になった高等学校のバスケットボール・チームの活躍を主題にした『SLAM DUNK』というマンガ  
に登場する場所、熱心な読者が殺到するためである。

このような現象を最近では「聖地巡礼」と表現し、映画やマンガの舞台になった地域や施設だけではな  
く、利用されなくなった鉄道施設さえ聖地になっている。山形県高畠町にある旧高畠駅は石造の荘重な建  
物であるが、現在では使用されなくなった車両の展示施設となり、鉄道ファンの巡礼場所として人気であ  
る。

北海道の石炭の産地として有名な幌内駅（三笠市）と積出の港湾のあった手宮駅（小樽市）を連絡した  
官営幌内鉄道は北海道開拓使が一八八〇年に敷設した道内最初の鉄道で、その手宮駅跡には現存する日本  
最古の機関車庫（重要文化財）が小樽市総合博物館の一部として保存され、鉄道の聖地として巡礼の対象  
になっている。

明治維新とともに日本の社会に導入された電気に関連する聖地も各地に実現している。最初に登場した  
のは先端を鋭利にした二本の棒状の炭素に通電すると先端から放電して発光する「アーク灯」であり、虎  
ノ門交差点に位置していた工部大学校で一八七八年三月二五日に点灯され、電気記念日となっている。

それから四年が経過した一八八二年に銀座二丁目交差点付近の歩道にアーク灯の街路灯が設置されて  
人々を驚嘆させ、銀座が日本を代表する商業地域になる強力な設備になった。その位置に現在は当時の形  
状の街灯が復元されている。これを契機に、以後、神戸、大阪、京都などにアーク灯を光源とする街路灯  
が浸透していった。

最近では冒頭に紹介した『SLAM DUNK』のようにアニメ作品が聖地を誕生させている。雑誌に  
連載されていた漫画『らき☆すた』は埼玉県北東部にある鷺宮神社が舞台に選定された結果、土師祭とい  
う伝統の祭りに使用されていた千貫神輿に追加して「らき☆すた神輿」が登場し若者に人気の行事に変わ  
った。

映画が創出した聖地も数多く存在する。高倉健主演の映画『鉄道員』は北海道の架空の幌舞線の幌舞駅  
が舞台になっているが、根室本線の幾寅駅で撮影された。ところが二〇二四年に路線は廃線、駅舎も廃駅  
になったが、映画の舞台を見物する人々が多数のため、「幌舞駅」という看板に変更して駅舎が保存され名  
所になっている。

日本は一九九〇年代初期のバブル経済崩壊から低成長期に移行し、経済成長は縮小、失業者数は増大と  
いう苦境に直面した。その対策として登場したのが観光立国である。当初の源泉は自然遺産や文化遺産と  
いう旧来の発想であったが、二〇〇〇年代になり若者世代を対象とするアニメやマンガによる聖地巡礼が  
登場してきた。

その発端が象徴するように、当初はアニメやマンガの熱烈なファンの個人的自発的行動が契機であつた  
が、二〇一〇年代に地方公共団体が地域振興の手段として注目して行事を開催し、さらに二〇年代になつ  
て中央政府も支援する体制に移行してきた。一世紀の創作とされる「鳥獣人物戯画」を元祖とするマン  
ガが日本を救済する手段に変身してきたことになる。